

参考資料
2019年実施資料



2019台湾美食展 日本美食館 (2019年7月26日~7月29日)

日本美食館 JAPAN PAVILION

出展企業



EVERYTHING FROM JP



主辦者: **NKB INC.** **NKB** 恩可比文創廣告

協力会社:



- 友士
- House好侍薑黃之力
- 資さんうどん SUKESAN UDON (資先生烏龍麵)
- 雪國物語
- 愛天空 Antique
- 熱海温泉郷
- 三旺加旺 TJ Collection
- EVERYTHING FROM.jp
- 伊勢志摩国立公園 海女のまち相差 (鳥羽市)

- 基本配電110V/5A
- 電箱
- 垃圾桶
- 白折疊椅



■ 日本美食館 JAPAN PAVILION



■日本美食館（長蛇の列）





■ 出展ブース 友士股份有限公司「友土地酒」



MISS SAKE TAIWAN
採訪



MISS SAKE TAIWAN 採訪



●出展ブース 株式会社 資さん SUKESAN CO.,LTD. 「資さんうどん -SUKESAN UDON-」/資先生烏龍麵



MISS SAKE TAIWAN 採訪





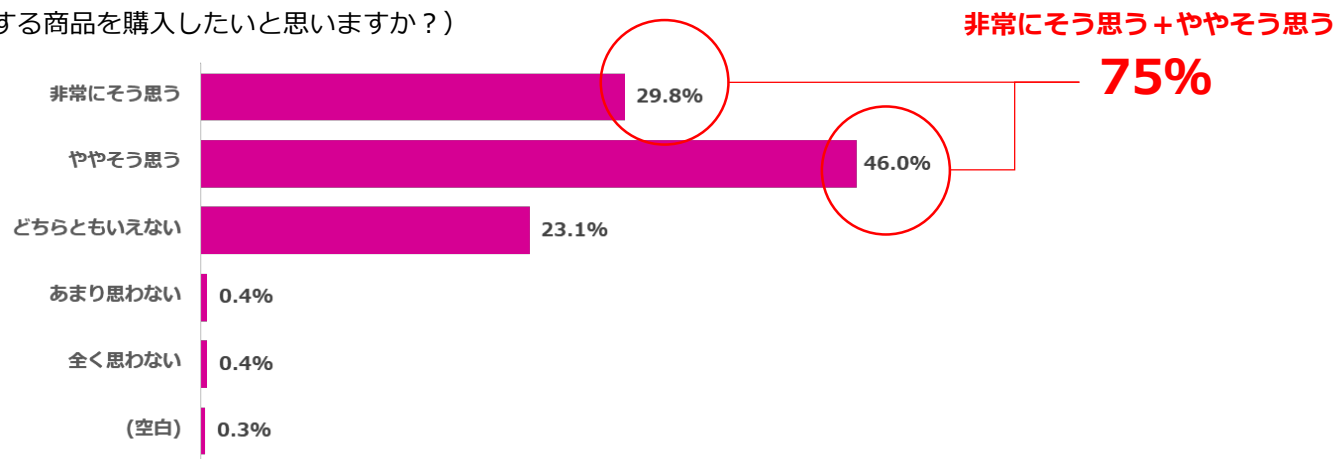
MISS SAKE TAIWAN 採訪

来場者から見た、日本美食館（2019台湾美食展 日本美食館来場者アンケート集計結果より）

来場者の日本美食館での商品購入意向、出展者が薦める観光地への訪問意向はともに高い値を示しています。

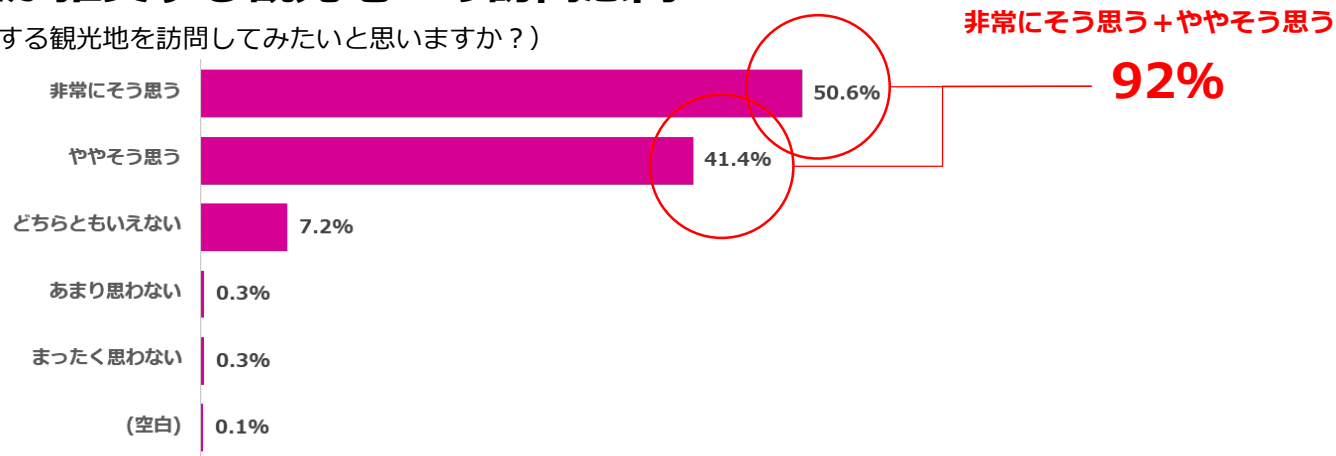
◆日本美食館が推奨する商品の購入意向

（日本美食館が推奨する商品を購入したいと思いますか？）



◆日本美食館が推奨する観光地への訪問意向

（日本美食館が推奨する観光地を訪問してみたいと思いますか？）



■来場者アンケート調査方法

- ・調査期間：2019年7月26日～29日
- ・調査場所：台湾美食展 日本美食館会場 日本館小舞台（ステージ）

- ・調査方法：QRコードでアンケートページへ誘導 ※アンケート記入終了後、抽選会に参加可能
- ・回答総数：719（7月30日現在）

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 意識調査 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ

【台湾】台湾美食展に日本館が初開設、9社・団体

7/29(月) 11:30配信



台湾最大の食品見本市、台湾美食展に初めて「日本美食館」が設けられ、多くの来場者を集めた=29日、台北（NNA撮影）

写真:NNA

台湾最大級の食品見本市「台湾美食展」が26日、台北市で開幕し、日本の飲食企業や地方自治体などから成る「日本美食館」が設けられた。日本美食館の設置は初めて。本場の味を楽しもうと多くの市民が集まった。

交通広告や食関連事業などを手掛けるエヌケーピー（NKB、東京都千代田区）が日本美食館を設置。9社・団体が10ブースを出展した。飲食・食品企業が試食品を振る舞ったほか、日本酒親善大使の

「Miss SAKE台湾」が会場を訪れ、来場者を迎えた。

このうちうどんチェーン店「資（すけ）さんうどん」を運営する資さん（福岡県北九州市）は、海外の見本市に初出展した。佐藤崇史社長は「アジア展開に向けて現地消費者の反応を見るのが目的。総じて消費者からの反応はいい」と述べた。

資さんうどんは北九州市を中心に約40店を展開。来年から台湾を含めアジアでの出店を目指す。

静岡県熱海市は、海産品やスイーツなど地元食品の認定ブランド「ATAMI COLLECTION A-PLUS」をPRした。熱海単独で台湾の見本市に出展するのは初めてという。市の担当者は「今回の出展を通じて熱海の食品を知ってもらい、実際に食べに来てもらいたい」と意気込んだ。

エヌケーピーの外谷敬之社長は、「日本美食館の開設は、まとめて出展することで相乗効果を生み出すのが狙い。地方の観光促進にもつなげたい」と述べた。来年は出展規模を今年の2倍にする方針だ。

エヌケーピーは昨年11月、台湾観光協会と日台の観光・食文化の振興に関する相互協力を目的とした提携覚書（MOU）を締結していた。

最終更新:7/29(月) 11:30

NNA

2019年7月29日「アジア経済情報誌 The Daily nna 台湾版」

The Daily NNA 台湾版
アジア経済情報誌
<https://www.nna.jp/>



PHOTO NEWS



見本市の台湾美食展に「日本美食館」が設けられ、日本酒親善大使が登場した=26日、台北（NNA撮影）

【台湾一食品】

台湾美食展に日本館が初開設、9社・団体

台湾最大級の食品見本市「台湾美食展」が26日、台北市で開幕し、日本の飲食企業や地方自治体などから成る「日本美食館」が設けられた。日本美食館の設置は初めて。本場の味を楽しもうと多くの市民が集まった。

交通広告や食関連事業などを手掛けるエヌケーピー（NKB、東京都千代田区）が日本美食館を設置。9社・団体が10ブースを出展した。飲食・食品企業が試食品を振る舞ったほか、日本酒親善大使の「Miss SAKE台湾」が会場を訪れ、来場者を迎えた。

このうちうどんチェーン店「資（すけ）さんうどん」を運営する資さん（福岡県北九州市）は、海外の見本市に初出展した。佐藤崇史社長は「アジア展開に向けて現地消費者の反応を見るのが目的。総じて消費者からの反応はいい」と述べた。

資さんうどんは北九州市を中心に約40店を展開。来年から台湾を含めアジアでの出店を目指す。

静岡県熱海市は、海産品やスイーツなど地元食品の認定ブランド「ATAMI COLLECTION A-PLUS」をPRした。熱海単独で台湾の見本市に出展するのは初めてという。市の担当者は「今回の出展を通じて熱海の食品を知ってもらい、実際に食べに来てもらいたい」と意気込んだ。

エヌケーピーの外谷敬之社長は、「日本美食館の開設は、まとめて出展することで相乗効果を生み出すのが狙い。地方の観光促進にもつなげたい」と述べた。来年は出展規模を今年の2倍にする方針だ。



台湾最大の食品見本市、台湾美食展に初めて「日本美食館」が設けられ、多くの来場者を集めた=26日、台北（NNA撮影）

2019.07.29 NKB 広報室